

沼線
道路

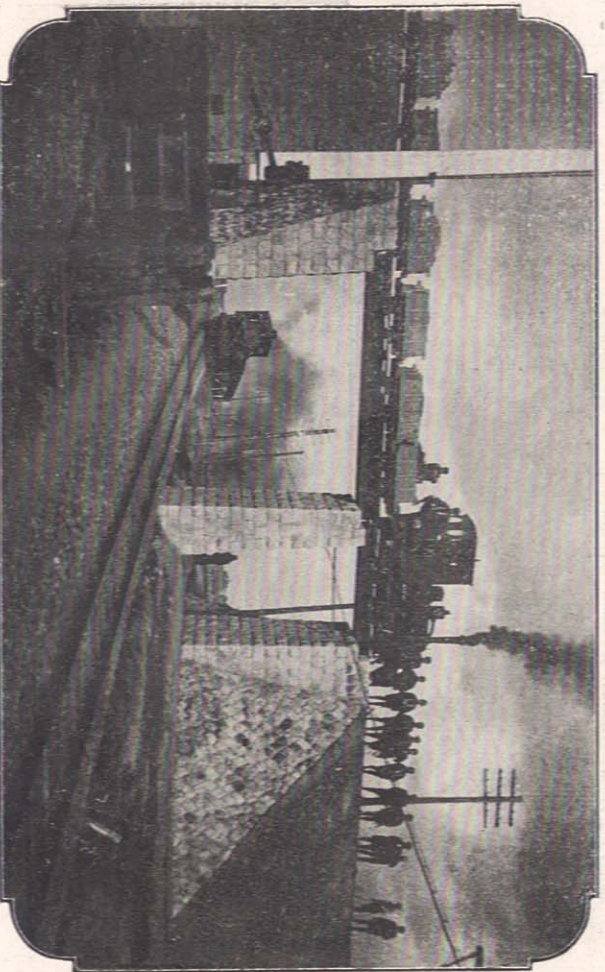


名勝案内記

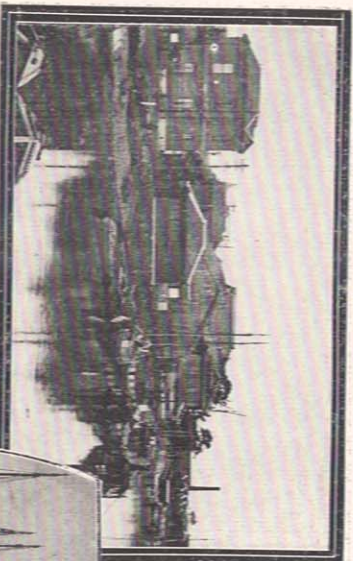
北勢鐵道株式會社

伊藤文庫
404

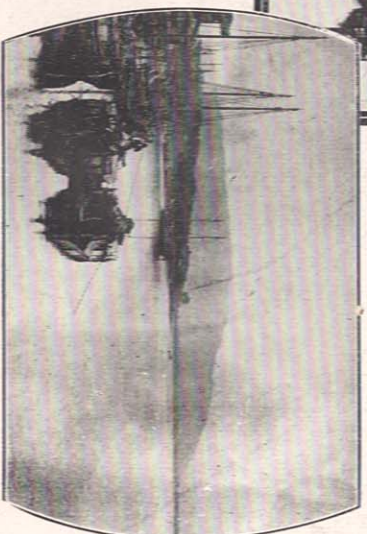
市名集
卷四



(近附驛田山大) 橋 線 跨



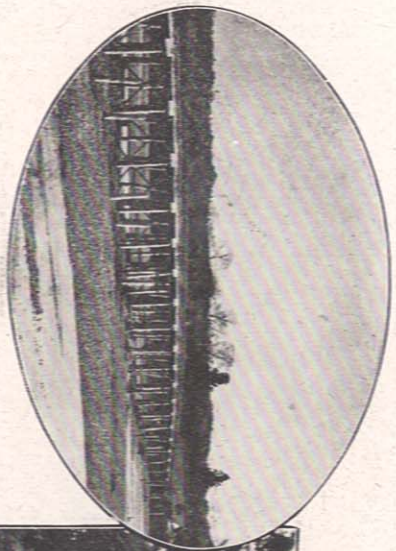
港名桑



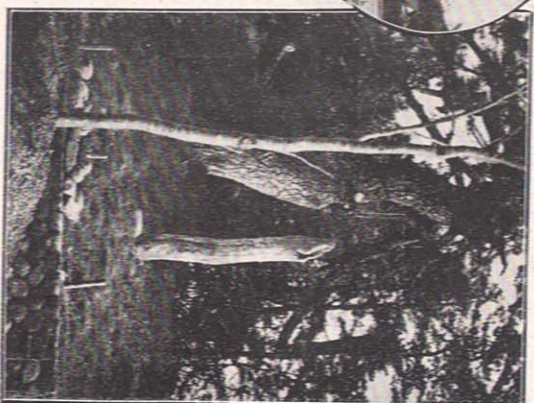
△望ヲ山度多リヨ港名桑



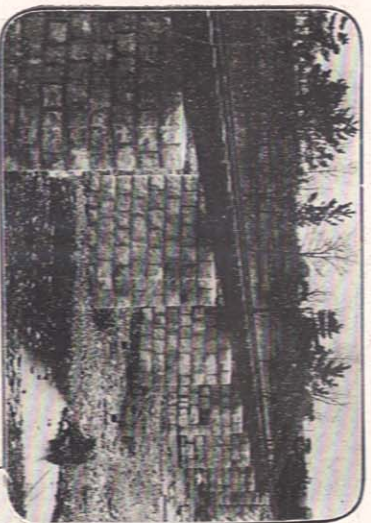
(驛逢馬) 樓景呑山宕愛



橋 非 坂



(驛野把六) 塚 取 鳥

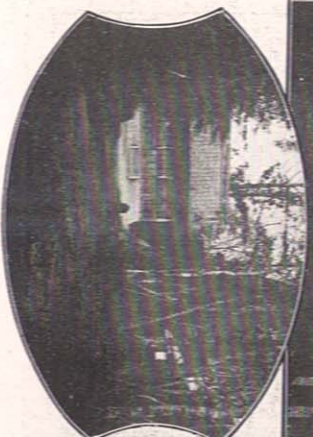
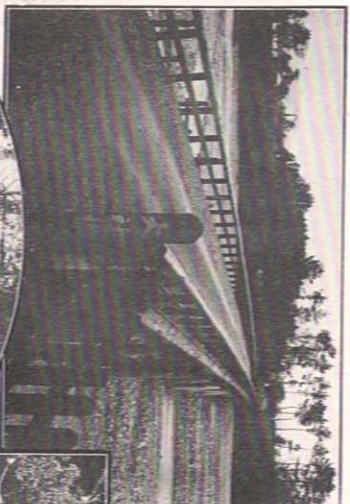


(驛社大北) 橋 鐵 川 屋 茶 道 鐵 本

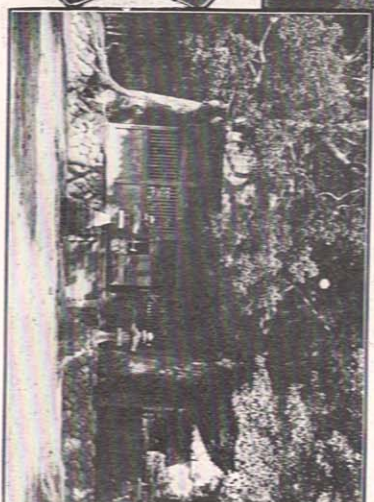


(驛社大北) 泉 温 山 東

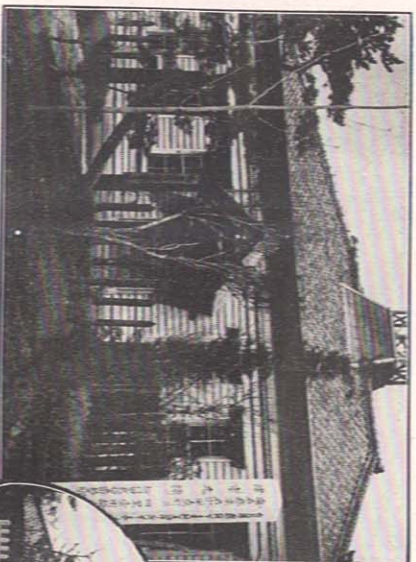
大社橋 (北大社驛)



(驛宮長) 社神宮長



(驛社大北) 社神部名猪



(驛原楚) 署察警原泉大



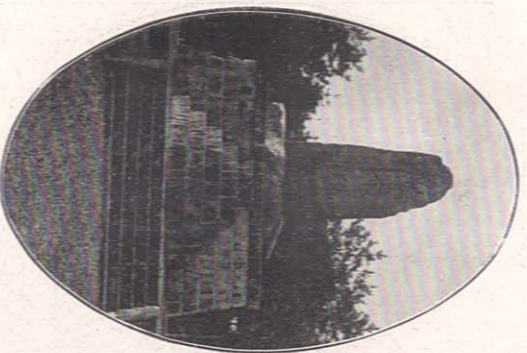
(驛原楚) 所役部辨員



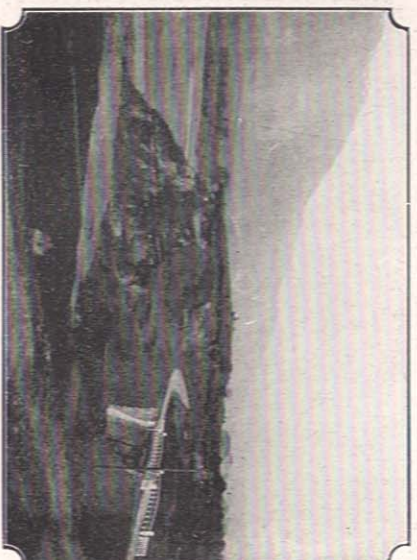
(驛原楚) 所習講業實念紀



(驛原楚) 溜大田笠



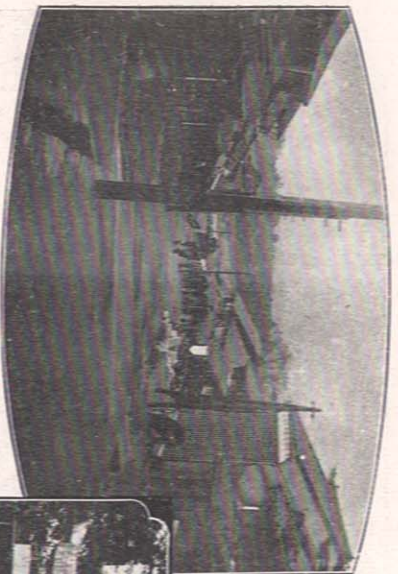
(驛田生麻) 碑念紀野田生麻



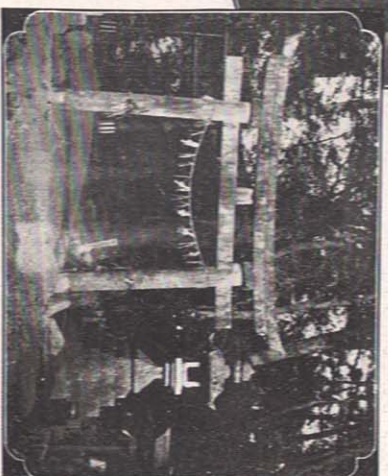
(驛田生麻) 橋石六



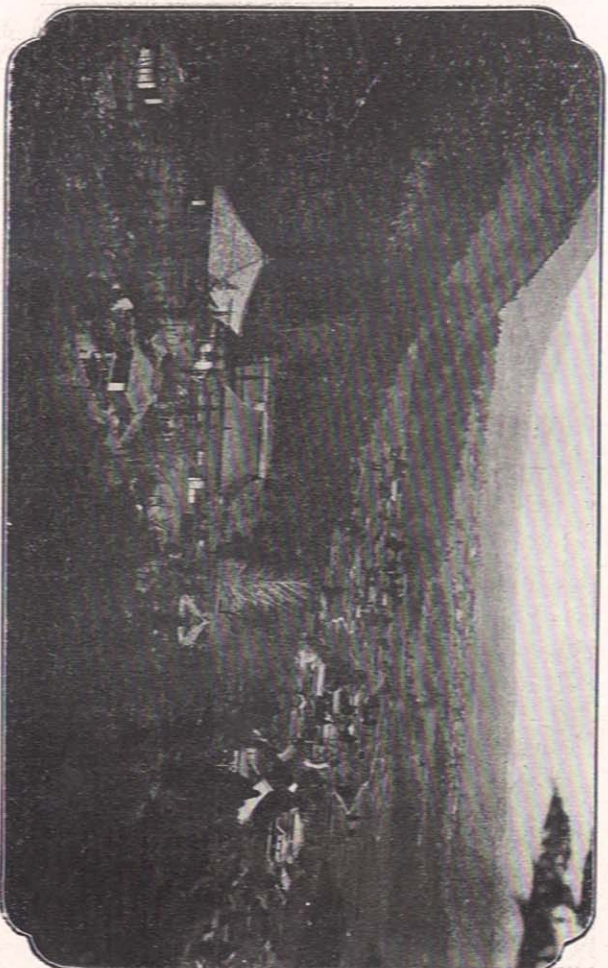
(驛田生麻) 景 絶 川 辨 員



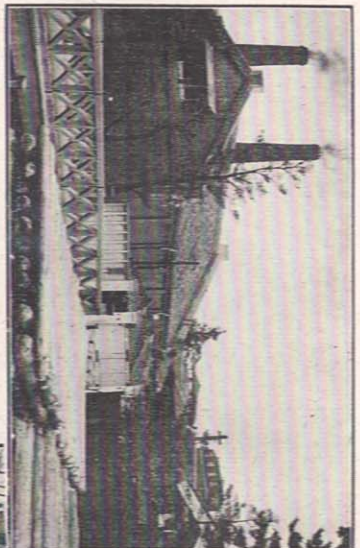
喜 下 阿



(驛喜下阿) 社 神 西 大



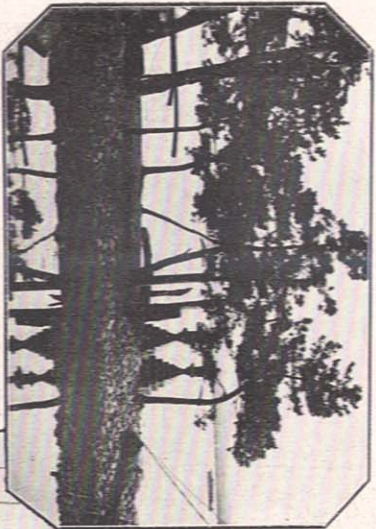
(近附驛臺下阿) 景全寺寶壘



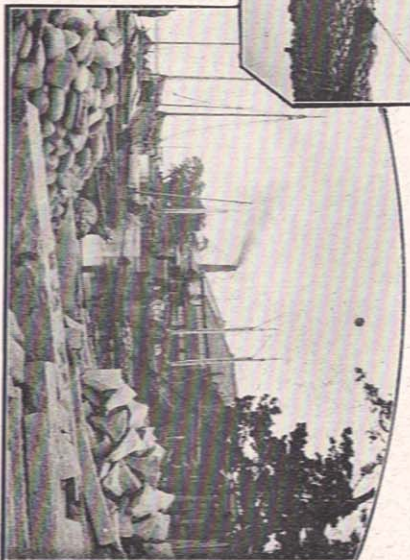
場工分名桑社會式株組紡重三



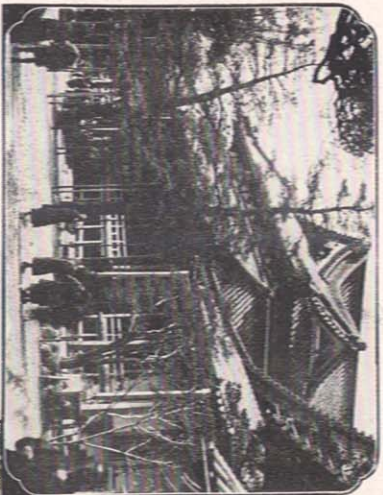
(町名桑) 社神日春



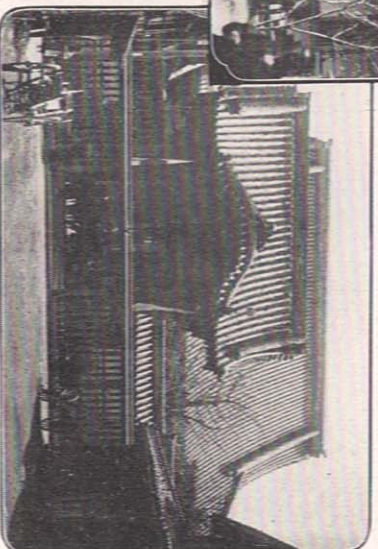
(町名桑) 住吉神社



星屋錦 船津屋ノ望ム



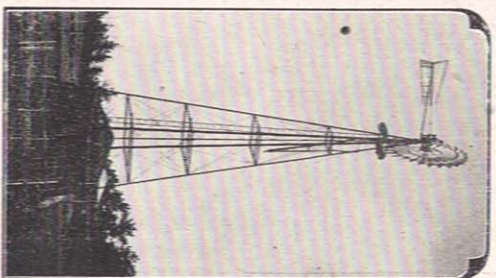
(町名桑) 本統寺



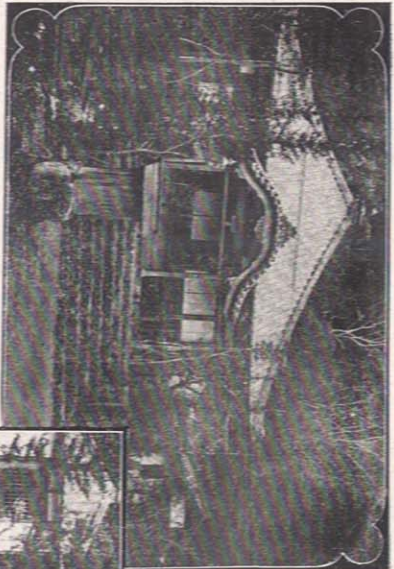
(町名桑) 法盛寺



(驛田山大) 寺 源 照



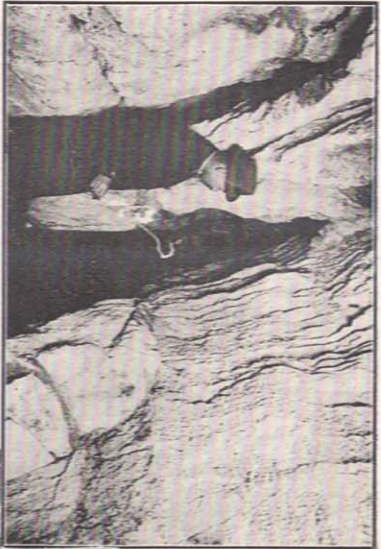
(驛道馬) 車風揚水園農來德



堂 本 寺 寶 聖



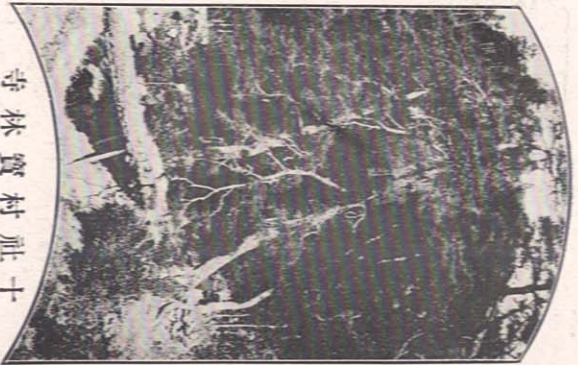
內 境 寺 寶 聖



(近附驛喜下阿) 穴 風



流溪ノ近附穴風



寺林寶村社十
(近附驛喜下阿)



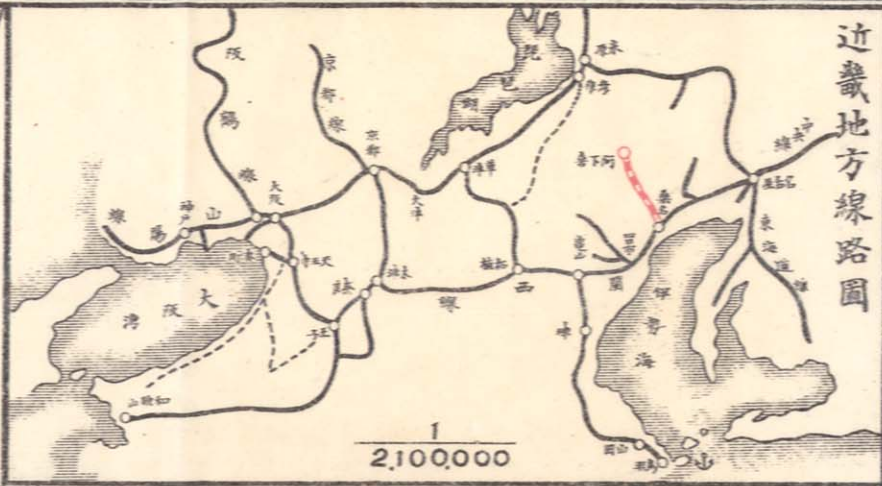
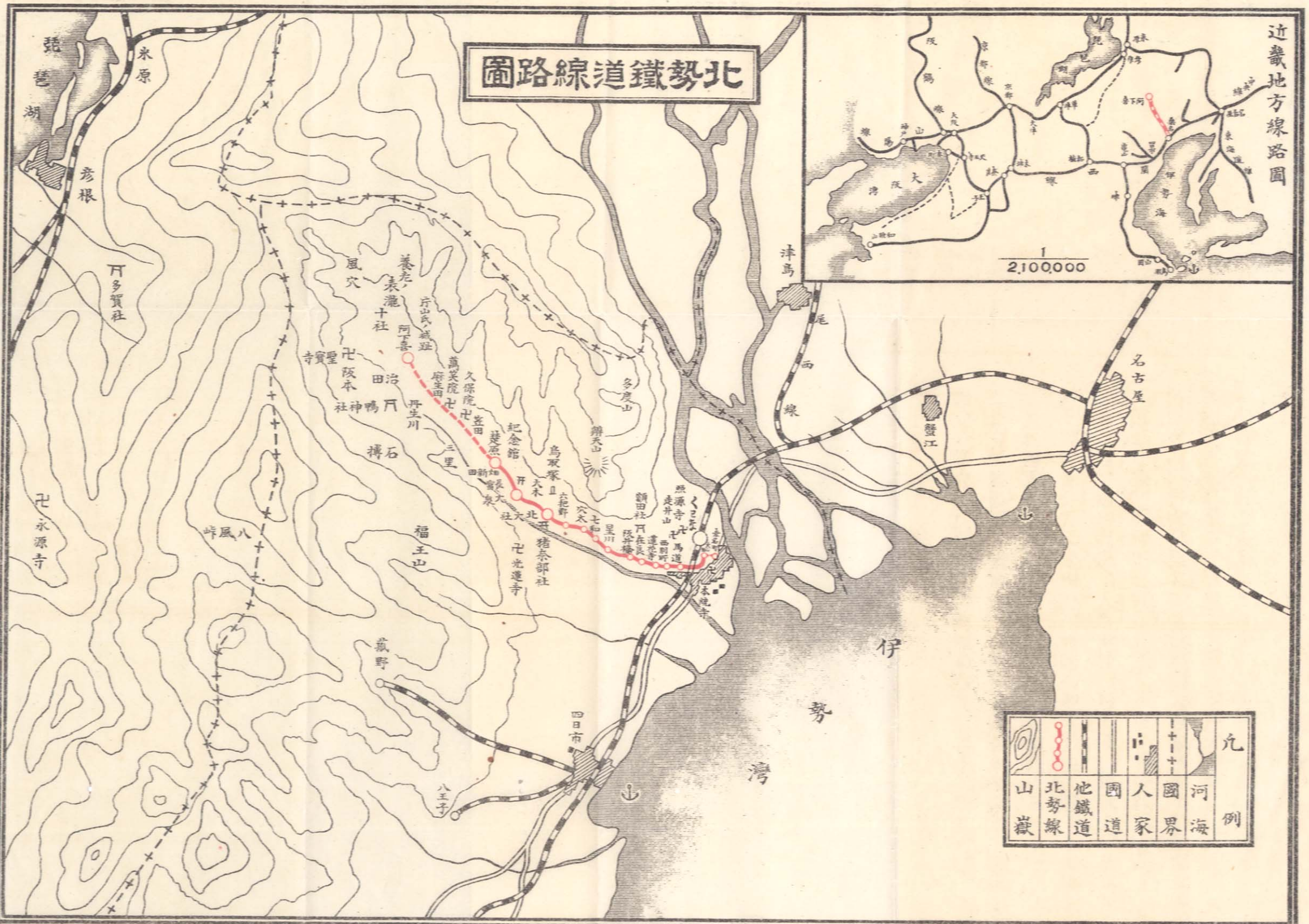
(近附驛喜下阿) 寺樂長村田立



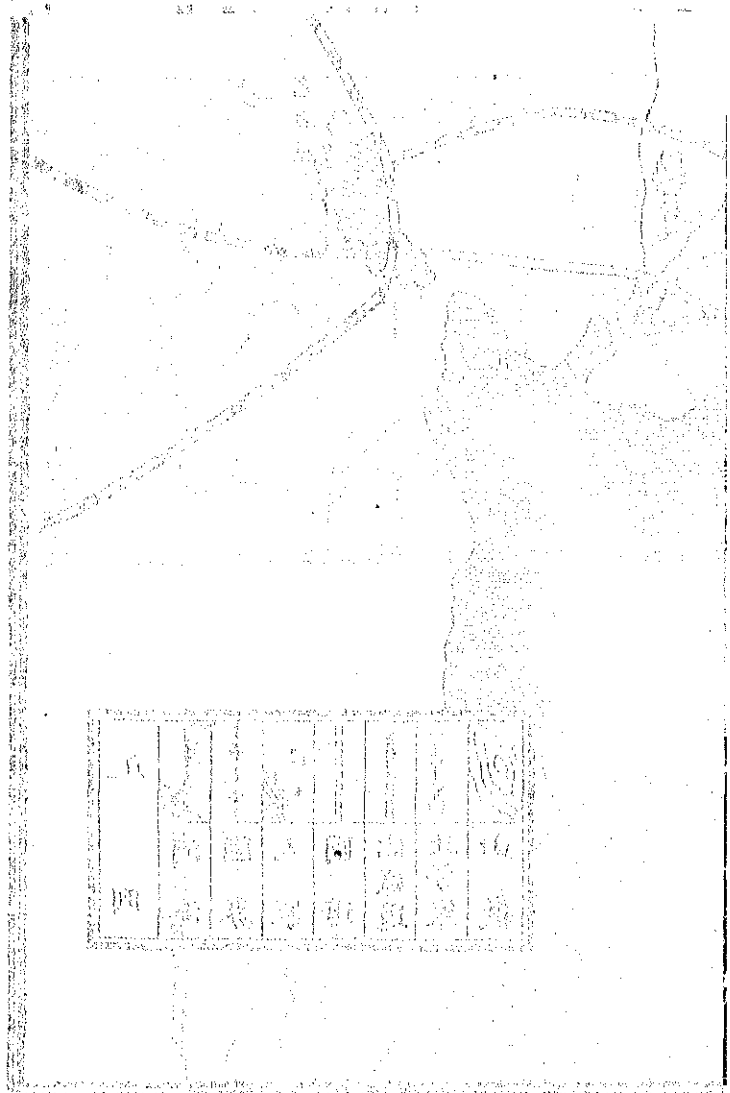
(近附驛喜下河) 社 神 田 立



北勢鐵道線路圖



						九
山嶽	北勢線	他鐵道	國道	人家	國界	河海例



緒言

北勢鐵道は鐵道院線と桑名驛に隣接し、東は桑名町に、西は員辨郡阿下喜村に至る、延長十三哩餘、内第一期として開業せるは桑名郡大山田村大字桑名より員辨郡大泉原村大字楚原間なり、續いて第二期線楚原阿下喜間を起工し不遠全線の竣成を期すべきなり沿線の地、地形高燥、人情素朴、西方連山起伏し、員辨川の清流滔々晝夜を分たず、田野、地味膏腴禾穀克く稔り茶桑亦繁殖す若し夫れ西方藤原嶽の連山に至つては全山悉く石灰石と云ふも過言に非らず無盡藏の寶庫たり、名所舊跡極めて多く、阪本の聖寶寺篠立の風穴及び長樂寺、河原の白瀧(養老表瀧と云ふ)、石搏の瀧

等殊に風光掬すべく、春色駘蕩の候には櫻花、山躑躅の爛漫とし
て艷美を競ひ、夏時は鬱蒼たる老松古杉涼風を起すを感ぜしめ飛
瀑熱暑の心を洗ふに足る自然の大公園たり、秋の楓、冬の雪四期
到處佳境ならざるはなくして思はず羽化登仙の詩趣を偲はしむ、
一度眸を日出の方に放たんか、蒼洋たる伊勢海を距て、知多半島
眉の如く波間に出没し其光景亦云ふべからず、從來員辨郡の地は
交通不便の爲め縣下の北海道と目されたりき、然れど本鐵道の開
通に依りて郡の中央を串通するを得ば獨り交通運搬の利を得るの
みならず、四時風光を探ぐるの人士の便亦尠からずと云ふべし

○桑 名 町

三重縣下の東北端に位し北掛斐川に臨み東海道の舊驛にして宮の熱田へ海路七里東海
道の咽喉と稱へられ市街殷賑を極む、往古は郡家にして郡司の所居桑名首の所知たり
天津彦根命の男天久之比乃命其裔孫の領する所、降つて保元平治中に至り源三位頼政
の領となり、文治中伊勢平氏の黨桑名三郎行政の所知となり、永祿中多氣國司北畠具
教の屬伊勢三郎氏直所知して住せり後、天正中澁川左近將監伴宿禰一益の領地となり
同年中豐臣秀吉臣天野周防守景俊居住し文祿中本多中務大輔藤原忠勝の領となり元和
中桑名少將松平隱岐守源定勝の領する所となり寛永中徳川の族松平越中守源定綱これ
を繼ぎ更に定信公となり夫れより子孫明治の維新に及ぶ。縣下の六市街と稱せらる
當今戸數三千七百餘町制を布き商賈軒を並ぶ

官衙には郡役所、稅務署、聯隊區司令部、郵便局、第二工區事務所、御料局出張所、
四日市區裁判所出張所等あり又郡立高等女學校あり、珉瑯鐵器株式會社、三重紡績株

式會社分工場、米穀取引所、伊勢タオル合名會社、瓦斯株式會社、桑名銀行、名古屋銀行支店等あり、旅館及料亭には船津屋、松花樓、京屋、江戸屋、松屋、吞景樓等あり名産は萬古燒、瑠璃磁器、時雨蛤、白魚罐詰、タオル、桑名盆、箆筒、及物、素麵等なり

○縣社桑名中臣兩神社（春日神社と云ふ）

桑名町の中央宮通にあり、桑名神社祭神は天津彥根命久々斯比乃命にして中臣神社は天日別命を本座とし相殿春日四社の神を合祀す兩社相並びて百疊敷の拜殿あり城内琴平神社二社、皇大神宮三社、稻荷神社二社、末社八重垣神社二十一社の祠あり域内に頼政井戸を存す樓門外の紫銅大鳥居は寛文七年松平越中守定重公の寄進に成り直徑一尺九寸高さ二尺五寸、銘に「華表巍々惟直惟圓神威可畏保定萬年」舊時は朱印百石あり桑名神社の祭日は毎年七月五日より同七日までを石取祭と稱へ七月十六十七兩日を本祭と稱ふ、中臣神社は九月十七八の兩日大祭を執行す石取祭は全町（士族地は別なり）

兼ふて壯麗なる山車數十輛を曳き列ね、摺籠太鼓の響き里餘に及ぶ老若男女の喧騒狂するが如し遠近より集ひ來るもの多く雜鬧を極め一種無類の壯觀たり

○縣社鎮國守國神社

桑名町大字吉の丸（俗に御本丸）に在り鎮國神は忠勝公の三子松平定綱公即ち初代の舊桑名藩主を祀り守國神は定信公（即ち白川樂翁公）を祀る

定綱公の桑名十一萬石に封せらるゝや神社寺院を脩め、殖林開墾を勸め交通を開く内員辨郡に於ける笠田の大溜、福尾山の殖林、平田新田の開墾、町屋、朝明兩川の架橋桑名町水道布設の如き今に至るまで庶民皆其の惠德に浴す守國神は毎年五月十二十三の兩日例祭を執行し十三日奉幣の儀あり鎮國神は毎年十二月二十五日例祭を執行さる月並十三日廿五日の兩度執行賽者最多し

する終にあたらちか原の露の身も

國を守りの鬼となるらむ

樂翁

○桑名別院本統寺

桑名寺町にあり京都東本願寺の別院にして教如上人の女長姫薙髮して壽量院と號し創めて法を布くこれ元龜二年なり降て慶安二年本統寺と改稱す寺内廣轉寺中三坊あり末寺二百三ヶ寺檀家一萬六千三百三十九戸代々東本願寺連枝住職に座す尚の彼岸及報恩講(十二月八日より廿三日迄)夏の御文(初六月廿一日より廿八日迄、中七月廿一日より廿八日迄、終八月廿一日より廿八日迄)其他毎日午前午後法義引立の説教あり參詣者絶ゆることなし檀家中廿八日講、大谷教會、茶所講、在講、四日講、女人講、至德講等あり明治十三年 明治天皇御行幸の際奥書院を行在所に充てさせらる、曾て芭蕉翁の來り寓す句あり

ふゆほたむ 千鳥に雪の ほど、きす

芭 蕉

○桑名町驛

桑名町に在り鐵道院線桑名驛より東桑名町京橋に在り

○天武天皇御舊跡

桑名町大字鍋屋町に在り壬申の亂に行幸鳳輦を駐め給ひし舊跡を紀念し奉りし者なり

○本多忠勝墓

桑名町大字清水町淨土寺内にあり

○法盛寺 (驛より東南十町)

桑名町大字萱町に在り眞宗西本願寺派にして本尊阿彌陀佛湛慶の作俗に齒吹如來と稱す秀衡の持尊なりと傳ふ古は天臺宗にして三州矢矧村にあり柳堂阿彌陀寺と稱號す喜禎元年見眞大師堂に上り髮弟忠圓坊を住せしむ依て改宗し應仁の亂に避けて此處に移り後ち法盛寺と改む元寺内末寺五坊寺外末寺二ヶ寺法末五十三ヶ寺を有せる別格寺にして代々連枝格たり西御坊と俗稱す春秋両彼岸及び毎年十二月十一日より十六日まで執行の報恩講には善男善女の參詣群をなし毎月一日より五日迄十五日より廿日迄の御法引立教話の參詣者多し

桑名郡立高等女學校

桑名町大字吉の丸(大山田驛より凡十二丁)に在り明治四十三年四月の創設にて大正二年度の校費豫算は六千八百七拾四圓なり、同年度の學級は本科四學級補習科一學級にして年度初の職員は校長以下十二名にて生徒は百八十三名なり本生徒を郡別にせば桑名郡百四十九名(内桑名町九十名)三重郡十八名員辨郡十七名其他五名なり、校風純朴にして都風に馴致せず紀綱整然たり

磁瑠鐵器株式會社

桑名町大字鍋屋町にあり(驛より凡十丁)分工場を同町大字水車に有す元鍋屋町廣瀬興左衛門氏の獨力經營に係り遠く慶長二年其祖の創始に出で明治の初年銑鐵錫釜類食器に磁瑠附着の業を始め漸く業務を擴張し後ち五拾萬圓の株式組織となし業務益々振ふ社長伊藤傳七氏にして廣瀬愷三郎氏之れが専務取締役たり現時の職工二百三十餘名、大正二年度の製造高實に貳拾貳萬九千八百八拾四圓餘を算せり其の販出地内地は勿論

近時朝鮮支那方面に於て専ら獨逸製品と拮抗して聲價を發揚せり

○三重紡績株式會社桑名分工場

桑名町舊城内にあり(大山田驛より凡十丁)揖斐川の流に接し二大煙筒を有するもの是なり明治二十九年三月桑名紡績株式會社として資本金百萬圓を以て創立したるを明治四十年八月に至り三重紡績株式會社と併合し分工場となし其の後業務を擴張して最初の一萬六千錘を増して二萬九千七百九十二錘(太)捻糸機(細)九千二百錘となせり職工男三百五十人女千五百四十人を有し寄宿舎には千三百人の女工あり工場及寄宿舎等能く完美し工女は良風俗を保つ本社は四日市々にして營業所は名古屋市中區中の町に在り資本金は千貳拾貳萬圓にして積立金五百五拾萬五千六百圓を有す伊藤傳七氏之が社長たり

○旅館 船津屋

桑名町大字船馬町にあり(大山田驛より凡七丁)本旅亭は元の大塚本陣に改築を加へし

もの亭は揖斐川の流に沿ひ近く院線の大鉄橋多度の三十六峯を遙に望み靉靄たる西濃の連山及木曾の御嶽を一陣に收め絶景畫げども成らざるの嘆あり明治の初年 明治天皇の行幸の際御駐蹕あらせられたることあり又成子の年有栖川宮熾仁親王殿下御駐泊眺憩樓の名を賜ひしと云ふ、明治維新の當時大南洲の密使舊桑名藩の重臣と會見せる亦このところなりと云ふ

○大山田驛 (桑名驛へ半丁)

桑名郡大山田村大字桑名にあり鐵道院線桑名驛に隣接す

○縣社尾野神社

桑名郡大山田村大字東方にあり(大山田驛より西方へ五丁)邦俗舟着神社と稱す祭神素盞鳴男命にて延喜式内なり例祭は毎年十月十五日毎月十五日並祭あり域内立坂神社は毎年四月八日を以て例祭日とす

○東海山照源寺 (大山田驛より西へ三丁)

桑名郡大山田村大字東方にあり淨土宗鎮西派義智恩院末なり本尊は湛慶作の阿彌陀如来舊桑名藩主樂翁公を始め累代の塋域なり寛永元甲子年の開基に係る境内に金龍櫻と唱ふる老樹あり

○大福田寺 (大山田驛より西へ五丁)

桑名郡大山田村大字東方にあり眞言宗御室御法派に屬す本尊阿彌陀如来にして安阿彌の作なりと云ふ境内に聖天堂あり歸依者尠からず本寺は元南勢山田の地より移り萬治年間まで益生村大字大福にありしを寛文中今の地に移せりと寶物に富む

○蠣塚

桑名郡大山田村大字蠣塚新田にあり(大山田驛より約十八丁西北)蠣塚西部の丘岡殆ど全部蠣の貝殻を出す時々丘岡の崩壊又は發掘の所より古代の土器を出すことあり又田の中より靈泉を出す

○馬 道 驛 (大山田驛より七十鎖)

桑名郡益生村大字馬道西裏にあり常時は貨物の取扱を爲さるも臨機其の取扱を爲すの設備あり

○走井山 觀音寺 (馬道停車場より二丁)

桑名郡大山田村走井山にあり本尊は千手觀音にして行基菩薩の作なりと云ふ伊勢國三十一番の札所なり、毎年七月十六日開扉す老若の參詣群をなす地高燥にして町家を瞰下し亦下流遙に伊勢の蒼海知多半島を望む四時の眺め飽くことを知らず走井山の晚鐘は桑名八景の一なり

○徳 成 農 園

桑名郡大山田村走井山と愛宕吞景樓との間にあり馬道驛より二丁實業界の偉人伊藤傳七氏の開闢する處なり明治四十五年春の創設に係り梨、柿、梅、栗、桃、密柑、子ブ、孟宗竹、及び珍奇なる和洋の草花類を栽培す園の中央には一大風力水揚器を設

け常に池に注げば山水の美觀を具ふ面積六千餘坪蓋し菓樹園として北勢の地に範を示すものと云ふよし

○愛宕吞景樓

桑名郡大山田村馬道驛の北丘高の地にあり欄によれば瞰下に桑名の町院線鐵路及我北鐵線を見る櫻花紅楓春曙秋晚によりしく田圃の夏景窓前の冬色共によりし又巨松鬱蒼幽邃にして俗塵を洗ふに足る春時の菜めし田がくは本樓の名物たるを失はず

○西 別 所 驛

桑名郡在良村大字西別所にあり

○蓮花寺 傳留所

桑名郡在良村大字蓮花寺にあり

○在 良 驛

桑名郡在良村大字額田にあり

○延喜式内郷社額田神社

在良村大字増田にあり額田停車場より約五丁祭神は意富伊我都命なり宮地山林八反五畝十五歩老松古杉鬱蒼として壯嚴なり毎年十月十六日例祭を行ひ花角力等あり遠近よりの人出極めて多し

○坂井橋驛

桑名郡在良村大字増田にあり之れより員辨川に架せる坂井橋を渡れば員辨郡久米村及梅戸井村に至る

○弘法山

桑名郡在良村大字増田に在り坂井橋驛より半丁明治三十四年の春高野山より弘法大師の像を勧請して之を安置す地形高燥桑名員辨の郡界にして員辨川に架せる虹の如き坂井橋を望みてその山水の光景掬すべきものあり遠近よりの信者日に來り堂に籠るもの多し

○根上り松

桑名郡在良村大字増田弘法山北裏の山上にあり(坂井橋驛より三丁)老松鬱蒼として眺望に富めり桑名町を瞰下し伊勢海の遠帆を望み員辨川の清流を眺むれば神心の暢ふるを覺ふ四時瓢を携へ杖を曳くもの多し

○式内平群神社 (坂井橋驛より南へ七丁)

員辨郡久米村大字志知に在り毎年十月十一日例祭を行ふ遠近よりの參者多し

○合祀社久米神社

員辨郡久米村大字中上にあり境内櫻楓等多く絶景の地なり例年十月十三日を以て祭典を執行す賽者多し

○星川停留所

員辨郡七和村大字星川に在り

○式内星川神社

員辨郡七和村大字星川にあり(星川停留所より北へ二丁)祭神武内宿禰を祀る明治四十年三月陸軍大臣寺内正毅伯より三十七八年役の戦利品を献納あり例祭は毎年十月十六日にして花角力の催しあり賽者多集す

かきあれば 橋とそなしぬ かさゝきの

たてるしるしに 星川の水

鳴長朋

○七和停留所

員辨郡七和村大字芳ヶ崎にあり

○芳ヶ崎の神木

員辨郡七和村大字芳ヶ崎なる芳賀崎神社の前縣道を距て、周圍一丈餘枝四方に廣がり四十尺に及ぶ「クロガ子」の樹あり俗に神木なりと稱へ七五三を張り尊崇す一枝を取るも直に崇りありといふ

○穴太停留所

員辨郡神田村大字穴太にあり

○辨天山

員辨郡神田村大字穴太停留所より北十五丁にして山上に老松翁鬱松叢簇産其名著る

○六把野停留所

員辨郡神田村神田に在り

○鳥取神社

員辨郡神田村大字鳥取に在り(六把野停留所より北へ五丁)前に藤川を繞らし城内老杉古松鬱蒼として森嚴なり延喜式内にして毎年十月九日を以て例祭とす花角力等ありて雜園を極む社域より北へ一丁許りにして三百坊と唱ふる處あり昔時三百の寺院ありしと今は凡て水田となれり

○鳥 取 山

員辨郡神田村大字鳥取に在りて化石を出す(鳥取塚)に建つるもの即ちこれなり

○鳥 取 塚

員辨郡神田村大字鳥取にあり老松塚の上に鬱蒼たり塚の東隣に員辨郡蠶業組合聯合會事務所ありその東にトロく坂あり

雲幾重 雲雀なくくくそ見塚

はせを

○大 社 驛

員辨郡稻部村大字北大社に在り同郡大長村に至るに便なり

○猪 奈 部 神 社

員辨郡稻部村大字北大社にあり(大社驛より三丁)域内老松古杉鬱として森嚴を加ふ毎年四月八九の両日鎬馬を執ふ縣下北勢の地は勿論美濃尾張の地より來り群集し極めて壯觀なり

○東 山 の 温 泉

員辨郡大長村大字南大社にあり土地高燥にして飛鷗の如き伊勢海の白帆を瞰下し風景佳絶避暑に適す

○梅 戸 井 村 (大社驛より廿五丁)

員辨郡梅戸井は員辨川南の市街にして戸數六百人口三千商家多く諸種の産物を出して殷賑なり

○光 蓮 寺

員辨郡梅戸井にあり臨濟禪宗の古刹なり光蓮山の麓に位し寺内廣く楓樹多し善男善女の參詣年中絶ゆることなし

○大 木 停 留 所

員辨郡稻部村大字大木に在り

○大 泉 驛

員辨郡大泉村大字大泉にあり同郡梅戸井村へ半里なり昨今員辨川へ一大架橋を設けたれば通行の便不撓といふ

○茶 臼 山

員辨郡大泉村の北方に位する丘岡の上奇松多く眺望に富む舊時御厨に用ゆる土器を作し所なりしと云ふ時々土中より古代の土器を出すことあり

○長宮停留所

員辨郡大泉村大字大泉大谷神社(俗に長宮といふ)北裏に在り

○大 谷 神 社 (俗に長宮といふ)

員辨郡大泉村大字大泉にあり社地廣大樹木鬱蒼宛然公園の如し毎年十月十一日恒例祭を行ふ賽者多し

○畑新田停留所

員辨郡大泉原村大字石佛に在り是れより桑名郡多度村へ通ずる道路あり約一里なり

○楚 原 驛

員辨郡大泉原村大字楚原に在り是れより員辨郡役所へ半丁記念館へ半丁大泉原警察署へ二丁にして八日市及石搏村に至る便道なり

○楚 原

員辨郡の中央に位し戸數二百商賈軒を並べ市街を爲す郡役所、警察所、裁判所出張所郵便局、名古屋銀行楚原出張所等あり又明治三十七八年戦役の記念館を有す同構内に實業講習所、蠶種製造所、花卉園、菓樹園、農作物實習場あり旅館には員辨俱樂部、加奈屋等あり

○紀 念 館

明治四十二年三月三十一日の竣工に係り建坪三十五坪八合あり明治三十七八年の役に郡内より出身の殉國將士の勇魂忠魄を祀り戦利品を陳列し圖書室を設く

○阿 下 喜

本村は員辨郡の一都會にして戸數四百商家軒を並べ員辨銀行四日市區裁判所出張所あり北關ヶ原に達し西彦根多賀に通ずる咽喉にして濃州街道巡見街道の分岐点に當り附近村落戸數四千人人口二萬人に對し常に物資の供給を爲せり西望すれば北勢富士と稱する藤原岳は巍然として雲表に聳へ員辨川の清流長く白布を織るが如く西南に流る古昔片山氏の城趾今尙老松古杉鬱々として昔を偲はしむるものあり

○阿 下 喜 驛

阿下喜驛は阿下喜の東方三町の處にあり

○實業講習所

明治四十二年十二月二十四日の竣工にして建坪數五十六坪七合あり毎年七月十一日より九月二十三日まで養蠶製糸に關する講習を行ふ

○原蠶種製造所

大正三年一月二十五日竣工を告げたるものにて建坪數三十五坪あり

○平古野

員辨郡大泉原隣北十七丁此地は往時桑名藩士の移住せし所にして四季共に雅客の杖を曳くべき所なり

春の花 秋のもみち葉 冬の雪 なかめつきせぬ 平古野の原

○笠田の大溜 (畑新田驛より半里)

員辨郡笠田村大字笠田新田に在り東西百二十五間南北三十五間あり寛永十三年桑名藩主松平定綱公(今は鎮國神社に祭らる)里人二井利兵衛なる人をして工を督して築かし

めしものにて百餘丁歩に灌漑す水中深く大穴あり觀世音の使ひ大蛇棲めりと傳ふ傍に二社あり一は 天照皇大神を奉祀し一は定綱公を祀る毎年九月二十四五の両日古行列を以て辨天祭を行ふ遠近の老幼男女群集す堤上の眺望絶佳にして四時文人の杖を曳くこと多し

○鴨神 社 (楚原驛より一里)

員辨郡丹生川村大字丹生川にあり域内宏く老樟古杉蒼鬱たる所鴨別雷命玉依毘賣命伊邪那岐命八幡大神を合祀す毎年九月二十日大祭を行ふ夜に入り大松明を點し優劣を競ひ奇觀を呈す

水鳥の 鴨の社に 額はは 心のちりも 清みぬるかな

○福王山の毘沙門天 (楚原驛より西一里半)

三重郡朝上村大字田口にあり山腹に毘沙門堂あり福王神社も共に祀らる毘沙門天は三尺の銅の立像にして 敏達天皇の御宇百濟より獻せしものを 推古天皇の御勅に依り

此山に安置せしものと傳へらる遠近の崇拜多く齋戒沐浴冬籠祈願するもの少なからず天狗杉千段杉等の觀るべきものあり茶水晶盤石を出し奇卉の採るべきもの亦多しその附近に西行庵の舊跡あり左の自遺あり

柴の庵に よるく梅の 匂ひきて

やさしき方も あるすまひかな

○上笠田停留所

員辨郡笠田村大字上笠田に在り

○麻生田停留所

員辨郡山郷村大字麻生田に在り

○麻生田の廣原 (麻生田停留所より三丁)

員辨郡山郷村大字麻生田に在り小松叢生す二十七八年役に於ける郡内の戦病死者の靈を祭るに一大紀念碑を建つ文字は故陸軍大將桂太郎公の筆になる土地高燥花躑躅多く

眺望絶佳なり

ますらをか 千年の春の 宿しめて ちらぬ櫻の 花を匂へる

○久保院

麻生田停留所より三丁員辨郡山郷村大字麻生田の紀念碑の南にあり前代議士和波久十郎氏の建立になり山内に八十八ヶ所の弘法大師を安置す全山松樹多く山下は員辨川の清流にして西方一帶連山を望めば其絶景云はん方なし

○萬笑院

員辨郡山郷村大字麻生田に在り(麻生田停留所より八丁)久保院に隣れる處土地高燥にして幽邃閑雅の域たり、春は古櫻院を包み、秋は紅楓前庭を彩りて畫くも成らざるの嘆あり南斷崖の下滔々たる員辨川の流れば院の森嚴を叫びて自然の崇拜を偲ばしめ東西に逶迤する塘堤は院を守護するに似たり院や由緒深く參詣者多し

○見 性 寺

阿下喜の東北五丁の山中に在り扁額に題して獅子窟と蓋し此地を獅子ヶ城と云へば也

古の獅子の窟も跡たれて 名のみ残れる 山寺の庵

○前川の鮎狩

阿下喜の南半丁員辨川に架したる前川橋の上下に於ける夏時の鮎狩りは土地の名物として愉快鬱ふるにもものなし清き流れの底深く涼風の漁衣を軽く吹くところ都市熱鬧人士の知る處にあらず

○河原の白瀧 (阿下喜驛より一里半強)

員辨郡十社村大字河原に在り俗に養老の表瀧と稱す巨巖懸崖百尺白布を垂れ霧を吹き糸を練るが如く夏時の遊客緘るが如し瀧の下一堂宇あり日出山清泉寺といふ行基菩薩の作聖觀音を本尊とす

○坂本の聖寶寺 (阿下喜驛より西方一里強)

西藤原村大字坂下藤原ヶ嶽の東麓にあり山號を鳴谷山といふ臨濟宗妙心派に屬し本尊は千手觀音にして傳教大師の御作なり境内に釋迦堂湧泉閣等ありて豪壯の器宇備はり泉水清く花樹に富み眺望佳絶なり町距にして鳴谷の瀧あり懸崖千丈清涼避暑に適す此地殊に脚氣を治するに妙なり夏時は避暑の客踵を接し花時亦遊覽の客多し保勝會を興し景を倍し諸種の設備を完からしむるの企畫ありと

瀧つせの 音も四方に なるたにの

山のおくには 夏なかり鳥

○永樂山長宗寺 (阿下喜驛より一里半)

員辨郡立田村大字篠立三國岳の東麓に在り馬頭觀世音を安置す本靈像は養老六年大德泰澄大師の作なりといふ土地高燥眺望に富む毎年四月三日を以て大法會を營む善男善女の參詣頗る多し

○治田の鑛山

二六

治田村大字新町にあり銅鑛なりしが今は廢して其跡のみを殘れる阿下喜驛より二十丁
○徳立の風穴 (阿下喜驛より一里半強)

三國岳の東麓立田村大字條立にあり員辨川の流れに沿ひ大洞窟あり風穴と稱す斷崖數
千丈絶景云はん方なし洞窟は窈悠として其窮むる處を知らず洞中には高さ三丈に餘る
處あり窟回曲折左右上下に岐れ所々に鐘乳石を生ず窟中の抜穴は日光通じ白龍ヶ瀧は
悽然として幽致あり香爐穴は二層の室をなし昔時修行者の籠居せし所と稱す神泉は清
澄掬すべく神門は石柱双立し古は童子之を守り戒めて曰く「門に入るもの視る勿れ聽
く勿れ言ふ勿れ」と傳ふ或は云ふ伊勢津彦命の棲む所なりとこの洞滋賀縣犬上郡多賀
神社より約五里なる佐目の風穴に相通すと悠遠にして極むべからず懸崖の間多く福壽
草を産す

○白 瀬 村

白瀬村は阿下喜驛より凡二里餘縣道關ヶ原街道に沿ひ分岐して大君ヶ畑、佐目、多賀
を経て江州の中央彦根驛に至る捷徑なり、近頃道路改修の計畫ありと云ふ

○石 搏 籠

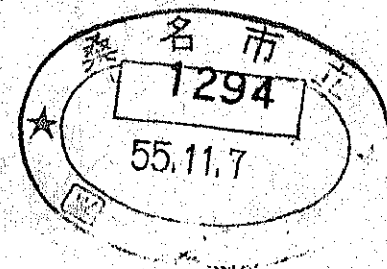
員辨郡石搏村大字石搏にあり(楚原驛より約一里)直下數丈猛夏中避暑に可なり

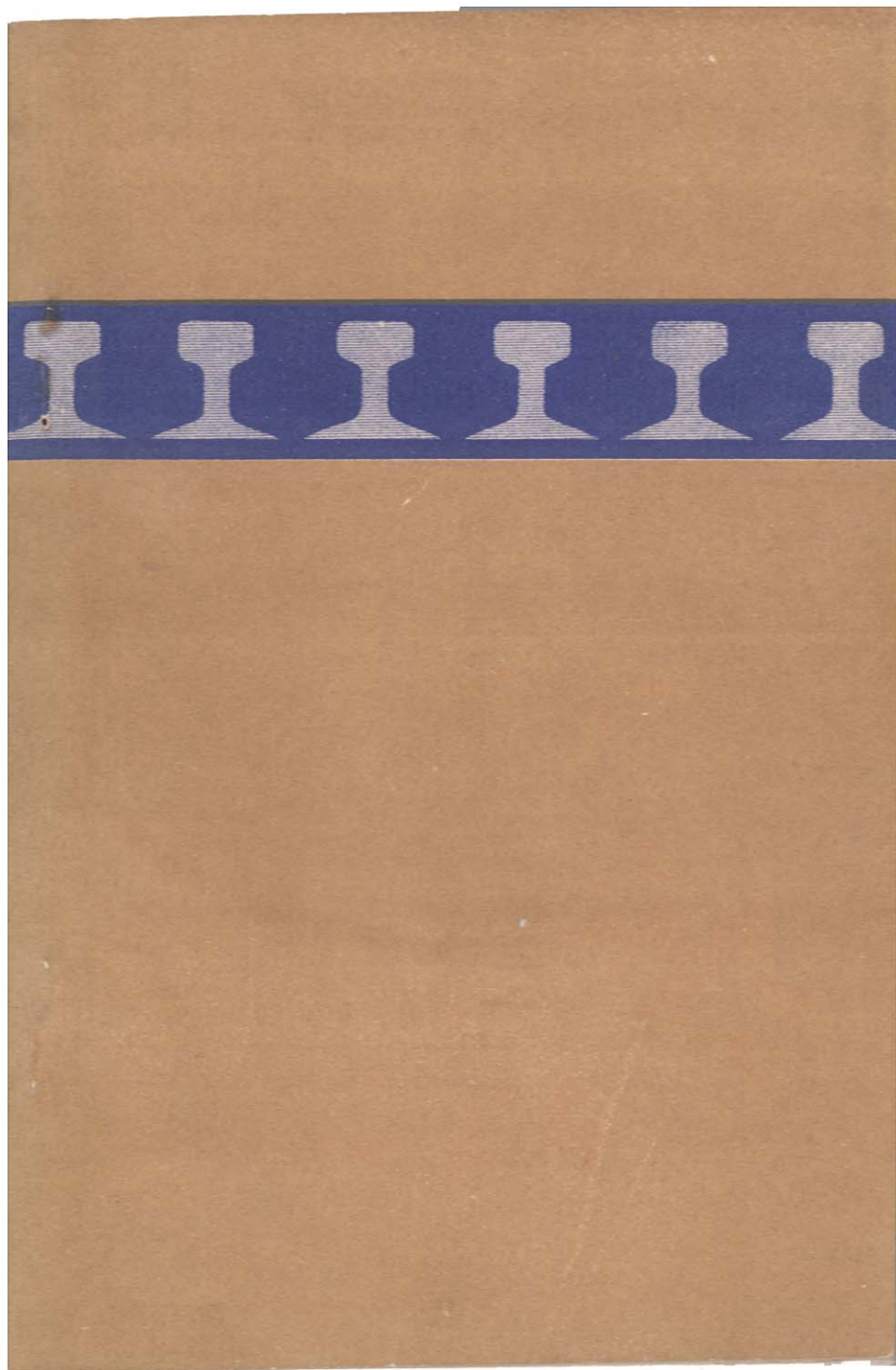
○照 光 寺

石搏村大字石搏南にあり(楚原驛より一里餘)蓮如上人の舊蹟にして由緒深き寺院なり
行願寺と共に世に名高し毎年四月開扉ありて雜沓を極む

○八 風 越

石搏村より著名なる八風並に江州永源寺を経て近江鐵道八日市驛に至る便道なり





北勢鐵道株式會社



列車轉運時刻表

線續接	車列行東										車列行西										線續接					
	楚原	楚新	長宮	大泉	大木	北野	穴太	七和	星川	坂井	在良	蓮花	馬道	西別	蓮花	在良	坂井	星川	七和	穴太		大木	大泉	長宮	楚新	楚原
及	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	及
時	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	時	
刻	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	刻	
接	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	接	
線	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	線		
續	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	續		
接	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	接		

備考
 △印ハ停留所ニシテ乗降客アル場合ニ限リ停車ス
 *印ヲ付セル甲乙丙丁列車ハ不定期列車ニシテ必要アル場合ニ運轉ス
 一時刻ノ右傍ニ×印アルモノハ列車行違ヲ示ス

特定制引金貨表

馬道	西別	蓮花	在良	坂井	星川	七和	穴太	大木	大泉	長宮	楚原	楚新
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四

一、小兒四歳未満ハ無貨十二歳未満半額
 一、貨金ニ限リ生スルトキハ錢位ニ切リ上ク
 一、一本表ニハ通行税ヲ含マズ
 一、一本表數字ハ錢ヲ單位トス
 一、一本貨金ハ當分ノ内當社規定貨金ノ約二割引トス

普通團體乘車券金貨表

人員	普通團體	學生團體
廿五人以上	二割	三割
五十人以上	二割五分	三割五分
一百人以上	三割	四割
二百人以上	三割五分	四割五分
三百人以上	四割	五割

備考
 ○客車一車ノ乘定員五分ノ四ニ相當スル人員ニ對シ
 ○客車貨切ノ取扱アリ

回数乘車券金貨表

區間	回数	割引率
大山田	二十回	五分
北野	三十回	五分
大泉	五十回	五分
大木	五十回	五分
長宮	五十回	五分
楚原	五十回	五分
楚新	五十回	五分

定期乘車券金貨表

區間	期間	種類	割引率
各	一月	普通	三割
各	三月	普通	四割
各	六月	普通	五割
各	一年	普通	六割
各	一年	學生	四割
各	一年	學生	五割
各	一年	學生	六割

小手荷物運賃略則

一、旅客カ旅行ニ必要ナル物品ヲ託送スルトキハ手荷物トシテ之カ運送ヲ引受ケ一人ニ付三十斤迄ハ無貨トス
 中貨金ニテ乘車スル小兒ノ無貨手荷物ノ制限ハ前項斤量ノ半トス
 無貨制限外ノ託送手荷物運賃ハ通常小荷物運賃ニ依ル
 二、託送手荷物重量ノ計算方ハ箇數ニ拘ラス總斤量ニ依リ計算スルモノトス
 三、託送手荷物ヲ受付ケタルトキハ乘車券ノ裏面(手荷)ノ印ヲ押捺ス

小荷物運賃

一、通常小荷物運賃ハ哩程ノ遠近ニ拘ラス左表ニ依ルモノトス
 四斤迄 七斤迄 十斤迄 以上十斤名ク其未滿ヲ增ス
 五 七 十 參 參 參
 二、本表ノ運賃ハ一個毎ニ之ヲ計算スルモノトス
 本表ノ運賃ハ一級ニシテ配達ノ取扱ヲナサ、ルモノトス
 三、行商人及呼賣商人ノ携帶スル運賃(貨重)中、歐類ヲ除クノ運賃ハ哩程ノ遠近ニ拘ラス左表ニ依ル
 五十斤迄 百斤迄 以上十斤名ク其未滿ヲ增ス每二
 五 十 參 參 參
 四、旅客自用ノ小荷物ハ一人一輛ニ限リ其乘車券面區間内ハ哩程ノ遠近ニ拘ラス金貨運賃トス

謹啓時下益々御清穆奉敬賀候陳者豫テ不一方御高配ヲ蒙リ候當社鐵道第一期線大山田楚原間九哩工事過般竣成去ル四月五日ヨリ運輸營業ヲ開始致候間別紙優待乘車券一葉並ニ線路沿道名勝案内記一部贈呈仕候ニ付御試乘被成下度御案内中上候開通當時早速御通知申上株主各位ノ御試乘可相仰筈之處諸般ノ準備ニ忙殺セラレ混雜ヲ極メ候爲自然不行届ノ点有之候テハ遺憾至極ニ付本日迄延引致候次第不惡御諒承被成下度候開業以來以御高底成蹟意外ニ良好ニ有之日々豫定以上ノ乗客ヲ輸送致居候へ共何分昨今ノ開業ニテ營業上未ダ不備ノ点多々可有之ト存候間逐日改良一層ノ便益ト繁榮トヲ期シ申度覺悟ニ付御試乗ノ上御氣付ノ件無御遠慮御内報ニ預リ候ハバ幸甚ノ至ニ御座候敬具

北勢鐵道株式會社

大正三年五月

營業長 横田 太一郎